

赤米ニュース

第 286 号

(2021年1月31日)



東京赤米研究会

〒186-0005 東京都国立市西 3-7-29 アゼリア国立 2-101 長沢方 (Tel.042-577-6855)

おしらせ	2285
おたより	2288
『赤米ニュース』第 161 号～180 号総目次.....	2288
表紙解説：江戸東京ゆかりの植物①—ムラサキ—	2291

おしらせ

●本年もよろしくお祈りします

明けましておめでとうございます。今年もおおいに頑張って、たくさんの収穫をあげましょう！。当会は皆様のご自宅での赤米栽培や、赤米作りの市民運動を応援し、できるかぎりサポート致します。何でもご相談いただきたいと思っておりますので、よろしくお祈り申し上げます。

さて、昨 2020 年はまことに多難な年でした。新型コロナウイルス感染症の世界的大流行によって、私たちの日常生活は大変な影響を受けることになりました。赤米作りに関する諸活動も大きな打撃を受け、さまざまなイベント活動などが自粛・中止に追い込まれ、せっかく盛り上がっていた市民活動に水をさされる結果となりましたことは、大変残念なことで、皆さんご存じの通りです。コロナ禍は今なお続いており、一向に出口が見えない状況に置かれていますが、そのような中でも決して希望を捨てず、できる範囲内で地道に奮闘してこられた諸団体・諸グループの活動には、目をみはるものがあったと思います。

東京都国分寺市内では、三つの市民団体が 3 年目の赤米作りに挑戦し、コロナ禍のきびしい制約下にあるにもかかわらず、多大な成果をあげております。まず、恋ヶ窪公民館を中心に赤米のバケツ栽培に取り組んできた「赤米セミナーレ」では、6 月 5 日に初の会員総会を開催し、2020 年度の活動計画などが話し合われました。新会員も加わって会も大きくなり、新会長には大石岳人氏が選出され、共同での種まき作業などもおこなわれました。

残念なことに、その後のコロナ感染の拡大にともなって公民館が休館に追い込まれてしまい、ミニ田んぼの世話も充分にできなかったせいか、収穫量もわずかなものにとどまっています。試食会や藁細工教室も中止となり、何とも惜しい結果となりましたが、これにめげることなく、2021 年度も頑張ってくださいたいものです。

武蔵国分寺跡地の赤米畑で、2 年目の赤米栽培に取り組んだ「国分寺赤米会」ではこの年、市立第五小学校と連携して、5 年生全員の参加による赤米作りの活動を指導することになりました。しかし、やはりコロナ禍によって市内の小・中学校が休校に追い込まれ、4 月に予定されていた児童らによる種まき体験活動も中止ということになってしまいました。しかしながら、会員たちは自主的に畑の耕起・播種・除草作業を 5 月におこない、前年の反省からマルチング農法の導入などもころみられました。6~7 月には記録的な猛暑のもと、手作業での除草奉仕が毎週続けられました。

その後、小学校の授業も再開されたので、児童らの野外体験活動は無理でも、せめて座学だけでも実現させようと、7 月 31 日には第五小学校で 5 年生全クラスでの特別授業がおこなわれることになり、赤米会のメンバーが講師となって赤米の歴史と文化に関するレクチャーが実施されました。児童らからは活発な質問が浴びせられ、その関心の高さに驚かされたものです。秋には校外活動も許されるようになり、9 月 9 日には 5 年生全員の参加のもと、赤米畑での稲刈り・脱穀実習が実現して、大成功に終わったことは素晴らしい成果です。その後の畑の片付け仕事なども毎週おこなわれ、糶摺り作業や史跡見学会、東京

農工大学の豊田剛巳教授らによる畑の線虫調査なども実施され、さまざまな制約があったものの、実り多い一年間の活動であったといえるでしょう。

一方、「赤米プロジェクト」の若手グループも活発な活動を展開し、2~3月にはホームページ作りのための話し合いが何度も持たれて、4月には複数のサイトを立ち上げることができました。2月28日に予定されていたcocobunjiプラザでの「ローカル・テーブル」イベントは、コロナのために中止になりましたが、赤米ビールの製造・商品化のための取り組みが精力的におこなわれ、複数の醸造所との話し合いもなされています。いつの日にかの実現が、期待されます。「胡桃堂喫茶店」では新製品の「赤米フロランタン」が発売となり、5月8日の『東京新聞』で大きく報道されました。

「赤米プロジェクト」の会員たちによる赤米栽培は、国分寺市・青梅市などの田畑を用いて大々的におこなわれ、計130kgもの収穫が達成されたことは、素晴らしい成果といえます。11月21日には、本町南町八幡神社で「第2回赤米祭」が開催されたほか、同月23日には恋ヶ窪の熊野神社で恒例の新嘗祭が举行され、当年産の収穫米が神前に奉納されています。

さて、2021年には一体どんなことができるのでしょうか。コロナ騒ぎはまだ終息しておらず、私たちはこれからもしかばらくは、苦しい忍耐を強いられることでしょう。しかし、明けぬ夜はないのですから、ここであきらめてしまつては駄目です。粘り強く頑張つていきましょう。コロナなど吹っ飛ばして、新たなことにどんどん挑戦していきましょう。2021年が皆さんにとって、実り多い飛躍の一

年となりますよう、おいおい期待していきたいと思っております。「全集中」の精神で、前に進んでいきましょう！。

●「胡桃堂喫茶店」で赤米フェア

国分寺市の「胡桃堂喫茶店（東京都国分寺市本町 2-17-3・Tel042-401-0433）」では、新年の「赤米フェア」を開催中です。2月17日（水）までやっておりますので、お気軽にご来店下さい。営業時間は午前11時から午後7時まで（ラストオーダーは午後6時半まで）、毎週木曜日が定休日となっております。当店が自家栽培した「武蔵国分寺種赤米」を用いた、いろいろな新メニューを各種、用意しておりますので、お楽しみ下さい。おもな



赤米定食



赤米茶



袋詰め赤米玄米（あかひめ）

メニューを、以下に紹介しておきます。

【赤米定食（1200 円）】

赤米ご飯・具だくさんのけんちん汁（信濃クルミ入り）・鶏肉と大根のクリーム煮・季節の野菜の香の物（白菜の柚子漬け）を組み合わせた新年恒例の定食セットです。赤米ご飯は、通常米に赤米を混ぜて炊いたご飯で、ほんのり赤く染まった色がきれいです。ご飯の赤とクリーム煮の白とで紅白となり、新年の祝いを表現しています。

【赤米茶（サービス）】

赤米から作った色鮮やかなお茶です。茶葉を用いず、赤米だけを煎って淹れたお茶で、さわやかな香りと、独特な味と風味が特徴です。持ち帰り用のパックも店内で販売しております。

【赤米甘酒プリン（500 円）】

赤米と麴だけで作った甘酒を、砂糖をまっ

く用いずにプリンにしたもので、アルコール度数はゼロです。プリンの上にかけての甘酒には赤米を混ぜているので、プチプチした食感が楽しめます。

【胡桃堂のお汁粉（650 円）】

小豆の食感がしっかりとあるお汁粉をめざして作りました。添えられた柚子ジャムと、餅の上のせた赤米の風味もお楽しみいただけます。

【赤米ブレンド珈琲「ハレの日」（750 円）】

ハレの日に食べる赤米をイメージして淹れたコーヒーです。ぱっとはなやかな中浅煎りのコーヒーの味をお楽しみ下さい。ブラジル・グアテマラ産を中心とした3種類のコーヒー豆をブレンドしております。さわやかな酸味と豊かな香りが特徴です。焙煎監修は TakaiTo Coffee です。

【赤米玄米「あかひめ」（700 円）】

持ち帰り用の赤米玄米の 100g パックの袋詰めです。当店が自前で無農薬・自然農方式によって栽培・収穫した「武蔵国分寺種赤米」です。自宅で白米と混ぜて炊いて下さい。一晩水に漬けておくと、柔らかく炊くことができます。店内で販売しておりますので、お買い求め下さい。製造元は、株式会社フェスティナレンテ（国分寺市泉町 3-37-34・Tel 042-401-0321）です。

赤米玄米は現在、日本中で販売されておりますが、正真正銘の古代米赤米が売られているのは、四大赤米でいえば岡山県総社市の「総社種赤米」と鹿児島県種子島の「種子島種赤米」のみでした。長崎県対馬の「対馬種赤米」については、いまだに商品化がなされておりません。今回、東京都国分寺市の「武蔵国分寺種赤米」が新たに加わることとなりました。

おたより

●池上さん、今年もありがとう（長沢利明）

本会会員の池上 修さんは、とても藁細工がお上手な方です。昨年は見事な亀の縁起物を作っていただきましたが、今年も素晴らしい正月飾りを届けていただきました。プロ級の技だと思います。素材の稲藁はもちろん、池上さんがご自宅で育てられた武蔵国分寺種赤米稲の藁で、長くて赤い稲穂の芒がシメ縄の中に残されており、心から感謝申し上げます（12/25：東京都国立市）。



見事な正月飾りを作っていただきました

●来年も継続（龍神瑞穂）

『赤米ニュース』の配布、ありがとうございます。来年も継続配布よろしくお願ひ申し上げます（12/24：東京都国分寺市）。

●今年もよろしく（坂 真矢子）

あけましておめでとうございます。今年も『赤米ニュース』を宜しくお願ひします。どうぞ御身体御自愛の程、お過ごし下さい（1/1：愛知県名古屋市）。

●赤米だより楽しみに（安本義正）

今年もよろしくお願ひいたします。いつも赤米だより、楽しみにしています（1/1：京都府京都市）。

●新年のご祝詞申し上げます（猪浦雅之）

謹んで新年のご祝詞を申し上げます。コロナの無い希望あふれる社会生活が早く戻りますことを待ち望んでいます。皆様のご健康とご多幸をお祈りいたします。本年もよろしくお願ひ申し上げます（1/1：東京都国分寺市）。

●本年もよろしく（浅子湧土）

恭賀新春。旧年中は色々ご教示頂き、ありがとうございます。本年も宜しくご指導の程、お願ひ致します（1/3：東京都三鷹市）。

●赤米をありがとうございました（富村隆子）

新春のお喜びを申し上げます。赤米を御恵贈下さいまして、ありがとうございます。楽しませていただきます（1/5：東京都国分寺市）。

『赤米ニュース』第 161 号

～第180号総目次

第 161 号（2010 年 8 月 1 日）

8 月の赤米作り-----1278

おたより（長沢利明：今年は順調！）-----1279

静岡県の赤米地名-----菅野郁雄 1279

赤米雑話（120）-----長沢利明 1282

表紙解説-----1284

第 162 号（2010 年 9 月 1 日）

9 月の赤米作り-----1286

おたより（菅野郁雄：岐阜県の調査終了，長沢利明：梅雨も明けて）-----1288

長野県の赤米地名-----菅野郁雄	1288	-----	1318
赤米雑話 121-----長沢利明	1289	おたより (多久島實: 新年度もよろしく, 長	
表紙解説-----	1292	沢利明: 世界最大の米消費国は?) ----	1318
第 163 号 (2010 年 10 月 1 日)		石川県の赤米地名-----菅野郁雄	1319
10 月の赤米作り-----	1294	赤米雑話 125-----長沢利明	1321
おたより (浜口景子: 猛暑で稲も疲れる?,		表紙解説-----	1324
菅野郁雄: 京都府の赤米地名調査終了, 長		第 167 号 (2011 年 2 月 1 日)	
沢利明: 歴博のレストランの古代米, 鈴木		おしらせ (赤米ドライフラワー作りについて,	
誠: 希珍黒米、育てています, 唐木田清雄:		本誌が紹介されました, 第 18 回試食会の	
長野の赤米地名が参考に) -----	1296	開催) -----	1326
富山県の赤米地名-----菅野郁雄	1298	おたより (菅野郁雄: 米の品種と地名, 垣田	
赤米雑話 122-----長沢利明	1300	千恵子: 千葉県に黒米研究会, 鈴木誠: 希	
表紙解説-----	1300	珍黒米の栽培結果, 菅野郁雄: 島根県のと	
第 164 号 (2010 年 11 月 1 日)		うぼし田) -----	1327
おしらせ (会員登録の更新のおしらせ, 西ト		稲ドライフラワーの作り方	
ミヨさんの赤米報告) -----	1302	-----唐木田清雄	1328
おたより (菅野郁雄: 岡山県国司神社赤米を		福井県の赤米地名-----菅野郁雄	1330
食べる, 長沢利明: 今年の赤米の出穂状況,		赤米雑話 126-----長沢利明	1331
菅野郁雄: 「唐根田」の件, 唐木田清雄: 『赤		表紙解説-----	1332
米ニュース』感想, 菅野郁雄: 「唐根田」		第 168 号 (2011 年 3 月 1 日)	
の件, 唐木田清雄: ドライフラワーの件,		おしらせ (今年度も種粃を配布します)	
垣田千恵子: 今年も豊作) -----	1303	-----	1334
岐阜県の赤米地名-----菅野郁雄	1305	おたより (唐木田清雄: 赤米シンポのこと,	
赤米雑話 123-----長沢利明	1306	菅野郁雄: 赤米雑話と赤米地名, 唐木田清	
表紙解説-----	1308	雄: 『赤米ニュース』164 号を読む, 菅野郁	
第 165 号 (2010 年 12 月 1 日)		雄: 島根県のとうぼし田地名, 宮本悠子: ブ	
おしらせ (再度会員登録の更新のおしらせ,		ータン赤米失敗, 森本幸子: 2 年目も収穫	
赤米学校、最後の田植え) -----	1310	成功, 森南聖后: 本年もよろしく, 濱口景	
おたより (芦田行雄: 切手を送ります, 坂真		子: 昨年はいまひとつ, 西トミ江: 昨年も	
矢子: 赤米を送ります, 長沢利明: 猛暑の		赤米栽培, 坂真矢子: 今年も赤米通信を,	
年は不作) -----	1310	安本義正: 今後ともよろしく, 瀬川洋子:	
三重県の赤米地名-----菅野郁雄	1312	謹賀新年, 芦田行雄: 光明皇后御遠忌, 横	
赤米雑話 124-----長沢利明	1313	山明子: 収穫できませんでした, 山田義	
表紙解説-----	1316	高: 赤米 7 種栽培中, 長沢利明: 今年も頑	
第 166 号 (2011 年 1 月 1 日)		張りましょう) -----	1335
おしらせ (本年もよろしくお願い致します)		滋賀県の赤米地名-----菅野郁雄	1338

新春座談会：マダガスカルの赤米のお味は？

(I) -----垣田千恵子・金井塚正道・川添裕稀・長沢利明・久野俊彦 1339
表紙解説-----1340

第169号 (2011年4月1日)

4月の赤米作り-----1341
おしらせ (東日本大震災の御見舞, 再度種籾の配布について) -----1344

おたより (多久島實：寒中御見舞申し上げます, 長沢利明：試食会の御礼) -----1345

京都府の赤米地名-----菅野郁雄 1345

新春座談会：マダガスカルの赤米のお味は？

(II) -----垣田千恵子・金井塚正道・川添裕稀・長沢利明・久野俊彦 1347
表紙解説-----1348

第170号 (2011年5月1日)

5月の赤米作り-----1350
おたより (長沢利明：大震災と赤米) -----1352
和歌山県の赤米地名-----菅野郁雄 1352

新春座談会：マダガスカルの赤米のお味は？

(III) -----垣田千恵子・金井塚正道・川添裕稀・長沢利明・久野俊彦 1353
表紙解説-----1356

第171号 (2011年6月1日)

6月の赤米作り-----1358
おたより (唐木田清雄：TMO赤無芒, 坂真矢子：愛知県産の赤米, 長沢利明：稲の国花と国旗) -----1359

鳥取県のとうほし田・たいとう田
-----菅野郁雄 1360

赤米雑話 127-----長沢利明 1361
表紙解説-----1364

第172号 (2011年7月1日)

7月の赤米作り-----1366
おたより (菅野郁雄：山口県を調査中, 長沢利明：大震災の義援金, 唐木田清雄：本誌

169号を読む, 川添裕稀：外国の赤米を, 長沢利明：今年の種まき終了) -----1367

赤米栽培ノート (岡山県総社市国司神社)
-----菅野郁雄 1369
赤米雑話 128-----長沢利明 1371

表紙解説-----1372

第173号 (2011年8月1日)

8月の赤米作り-----1374
おたより (長沢利明：九州にて, 榎本直樹：家庭菜園で赤米を, 菅野郁雄：徳島県の赤米地名, 垣田千恵子：武蔵国分寺種を)

-----1375
続・赤米栽培ノート (岡山県総社市国司神社)
-----菅野郁雄 1376

赤米雑話 129-----長沢利明 1378
表紙解説-----1380

第174号 (2011年9月1日)

9月の赤米作り-----1381
島根県のとうほし田 (たいとう田)
-----菅野郁雄 1384

赤米雑話 130-----長沢利明 1385
表紙解説-----1388

第175号 (2011年10月1日)

10月の赤米作り-----1390
おたより (多久島實：大阪府立大学の稲, 菅野郁雄：杉並郷土史会会報) -----1392

岡山県のとうほし田 (たいとう田) ・その1
-----菅野郁雄 1392
赤米雑話 131-----長沢利明 1395

表紙解説-----1396

第176号 (2011年11月1日)

おしらせ (会員登録の更新のおしらせ) --1398
おたより (川添裕稀：ブータ赤米順調, 濱口景子：米も心配, 菅野郁雄：九州の赤米地名, 唐木田清雄：今年の田んぼアート, 鈴木誠：6種類を栽培中, 唐木田清雄：本誌

174号の感想) -----1398
 岡山県のとうほし田(たいとう田)・その2
 -----菅野郁雄 1400
 赤米雑話 132-----長沢利明 1402
 表紙解説-----1404
第177号(2011年12月1日)
 おしらせ(再度会員登録の更新のおしらせ)
 -----1406
 おたより(菅野郁雄:長崎県の赤米地名,長
 沢利明:今年の出穂状況)-----1406
 広島県のとうほし田・たいとう田
 -----菅野郁雄 1406
 赤米雑話 133-----長沢利明 1407
 表紙解説-----1412
第178号(2012年1月1日)
 おしらせ(今年もよろしくお願ひ致します,
 総社の赤米神事の紹介)-----1414
 おたより(唐木田清雄:176号の感想,菅野
 郁雄:香川県のとうほし田・たいとう田地
 名,唐木田清雄:信州のトウコン地名,長
 沢利明:武蔵国分寺種のひつじ稲,唐木田
 清雄:トウコンの利用,唐木田清雄:トウ
 コンの資料を)-----1414
 山口県のとうほし田・たいとう田
 -----菅野郁雄 1416
 赤米雑話 134-----長沢利明 1418
 表紙解説-----1420
第179号(2012年2月1日)
 おしらせ(法政大学の学生の皆さんへ)
 -----1422
 おたより(菅野郁雄:来年は種子島種を,芦
 田行雄:稀珍黒米では?,川添裕稀:フィ
 リピン種成功,唐木田清雄:『赤米ニュー
 ス』を読んで,鈴木誠:収穫米を送ります,
 唐木田清雄:青森県の「赤モロ」,坂真矢
 子:来年もよろしく,横山明子:武蔵国分

寺種、稔りました,木下涼:赤米栽培をし
 てみたいです,唐木田清雄:ネリカ米送り
 ます,長沢利明:これがネリカ米!,菅野
 郁雄:今後ともよろしく)-----1422
 愛媛県のとうほし田・たいとう田
 -----菅野郁雄 1424
 赤米雑話 135-----長沢利明 1425
 表紙解説-----1428
第180号(2012年3月1日)
 おしらせ(今年度用の種籾を配布します)
 -----1429
 おたより(多久島實:来年は良い年に,坂真
 矢子:おめでとうございませう,西トミ江:
 新年のご挨拶を,瀬川洋子:ごぶさたして
 います,芦田行雄:赤米一筋30年,濱口
 景子:来年も会報を,菅野郁雄:鹿児島県
 の赤米地名,安本義正:おめでとうござい
 ます,唐木田清雄:切手送ります,長沢利
 明:タイのインディカ糯米)-----1431
 高知県のとうほし田・たいとう田
 -----菅野郁雄 1432
 赤米雑話 136-----長沢利明 1434
 表紙解説-----1436

【表紙解説】江戸東京ゆかりの植物①—ムラサキ—
 ムラサキはムラサキ科の植物で、その根を「紫根」とい
 い、紫色の染料が取れる。江戸時代の武蔵野は紫根の産地
 で、三鷹市の井の頭弁天の境内には、江戸中の紫根問屋の
 寄進した、石灯籠と宇賀神像とが今も残されている。紫
 根で染めたあざやかな紫色は、まさに江戸っ子の粋の象
 徴であって、助六の鉢巻きを見ればよい。ムラサキの紫
 色は、江戸のシンボル・カラーなのだ。現在の武蔵野
 では、いまやムラサキは絶滅寸前の状態であるが、小
 平市の都立薬用植物園、国分寺市の万葉植物園などに
 行けば、その可憐な花を見ることができる。